

# 三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

## 計画タイトル

オーストラリアの環境教育をイルカを通して学ぶ

## 学生情報

氏名	小林 祐
所属学部・研究科	生物資源学部・海洋生物資源学科
学年(出発時)	1年

## 渡航先情報

渡航先	オーストラリア・西オーストラリア州・バンバリー
渡航期間	23年2月14日 ~ 23年3月20日
訪問先機関等	Dolphin Discovery Centre
訪問先機関での身分	ボランティア

## 渡航概要と内容

オーストラリアは子どもたちへの環境教育が日本よりも進んでいることを知った。  
今回の渡航概要はどのようにして観光客に環境教育をしているのかを学ぶことである。

### ボランティアとしての活動内容

- ・水族館のバックヤードの仕事  
→水槽のガラス拭き、カメとタコのエサやり、水替え
- ・イルカを見るツアーのお客さんの補助

## 渡航により達成できたこと

大学で習った専門知識や英語を実際の現場で使うという体験を通して、大学でやっていた勉強が無駄ではなかった、そして世界で通用する勉強だということを実感できたのがとてもよかった。  
約一か月間自分が将来何をやりたいのか本気で考えることで、色々なことに興味を持つことができた。

### 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

コミュニケーションをとるのが難しかったです。特にイルカを見るツアーでは人の命を預かっていたので、スタッフと英語で意思疎通できなければならず、自分の英語力がまだまだだと実感しました。今までは人懐っこく飼いなされたイルカばかりを見ていたけれど、野生のイルカはやはり水族館のイルカとは異なり、彼らと共存しなるべく彼らにストレスを与えないようにする取り組みに力を入れているのがよくわかった。子供が水族館に来館し、海の生き物を見たり触れたりして学んでいく様子を間近にみて、オーストラリアの子供の環境保全への取り組みが進んでいる要因を肌で学ぶことができた。豊かなフィールドを生かし、野生のイルカを通して子供たちの興味を引き、そして水族館で正しい知識を与えるという仕組みが整っているのが理にかなっていると感じた。

### 今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の経験は大学で勉強していることが世界に通用し、大学の授業を頑張ろうというモチベーションになった。例えば英語では、自分の英語力が不十分であり、他のボランティアが何を言っているのか理解できないことが多々あった。単語やフレーズを自分で勉強し、TOEICなどの資格勉強をしようと思った。そして、専門では今までイルカの研究をやりたいと思ったが水族館で他の生物を見ていくうちに他の生物にも興味をもち、知識を蓄えようと思った。

### この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

迷っているなら申請してください。  
例え採用されなくても、案外申請書を書いているうちに自分が何をやりたいのかまとまってくるかもしれません。  
私は申請書を通して、自分の興味ある分野を研究する教授とたくさん話し、自分の考えていることを整理することができました。  
そして、自分で一から旅を計画し、お金や時間の管理をすることで精神的にも自立できた気がします。  
いつもと違う国、いつもと違う言語、いつもと違う文化を持つ国で学ぶ経験はきっと人生に大きな影響ももたらすと思います。  
皆様の挑戦心から応援しています。  
世界に出て、色んな人に出会い自分がちっぽけな人間で、まだまだ勉強する余地があることを実感してください。

### 計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費	316,540円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	14,420円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	3,500円
宿泊費(宿泊タイプ:ゲストハウス)	120,000円
光熱費	0円
食費	70,000円
その他	10,000円
合計	534,460円